

富山県防災会議議事録

日時 平成 24 年 5 月 29 日（火）13:00～

場所 ANA クラウンプラザホテル富山 3 階 鳳の間

1. 開会

（司会） 皆さま、お待たせいたしました。ただ今から富山県防災会議を開会いたします。はじめに、県防災会議会長であります富山県知事石井隆一より、開会のご挨拶を申し上げます。

2. 会長挨拶

（会長：石井知事） 本日、富山県防災会議を開催しましたところ、皆さま大変お忙しい中、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

富山県では、昨年の東日本大震災の教訓も踏まえまして、昨年 6 月から県の防災会議を開催し、富山県の地域防災計画の地震・津波対策、また原子力災害対策の見直しに着手してまいりました。そのうち地震・津波対策につきましては、今年 2 月にこの防災会議を開催しまして、中間報告案を取りまとめていただいたところです。その後、パブリックコメントも経まして、3 月末の地震対策部会で計画の修正案を取りまとめていただきました。今日の防災会議では、これまでの地震対策部会の検討状況を踏まえて室崎部会長からご報告をいただきまして、この計画修正案についてご審議をいただければと思っております。またこの機会に、部会では一度説明していますが、昨年 5 月から実施してまいりました津波シミュレーション調査の結果につきまして、事務局からご報告をさせていただきたいと思っております。

この地域防災計画の見直しはもちろんですが、できるだけ実行することが大切だということで、津波・地震対策につきましては、これまでの県の防災会議のご審議、検討状況も踏まえまして、県の平成 24 年度予算からはっきりと方向が定まったものにつきましては既に予算化をさせていただいております。また、その中でも、この 4 月から県の広域消防防災センターもオープンしましたので、このセンターを活用した防災教育の充実、津波ハザードマップの作成、地震・津波の避難訓練をしていただく際の助成をするなど、数多くの

新規施策も盛り込んでおります。計画の見直しと並行しまして、県民の皆さんの安全・安心のために精いっぱい努力し、日本一安全・安心な県と評価していただけるように頑張っていきたいと思っております。

津波・地震対策関係については、今回がご検討いただく最後の機会になると思っておりますので、今後の計画の進め方なども含めまして、ぜひ忌憚のないご意見を賜ればありがたいと思っております。よろしくごお願い申し上げます。

(司会) 次に、本日ご出席いただきました委員の皆さま方につきましては、お手元にお配りしております出席者名簿のとおりです。

それでは、ただ今から会議を始めさせていただきます。会長、よろしくごお願いいたします。

3. 審議事項

富山県地域防災計画（地震・津波災害編）修正案について

(石井知事) それでは、議事に入らせていただきます。今日は、今ほど申し上げましたように、地域防災計画（地震・津波災害編）について修正する最後の会議になりますので、まず修正案について、第4回地震対策部会の審議結果に基づいて室崎部会長からご報告をお願いいたします。

(室崎部会長) 地震対策部会長の室崎でございます。よろしくごお願いいたします。

本年2月の防災会議で中間報告をさせていただいているわけですが、その後、3月に第4回地震対策部会が行われました。そこでは詳細な津波シミュレーション調査の結果が示され、それを踏まえて議論をさせていただきました。ここではその審議の結果をご報告させていただきたいと思っております。まず、2月の第2回防災会議までに各委員の皆さんからいただいたご意見を、簡単に要約させていただきたいと思っております。

1点目はまさに3.11の教訓ですが、想定外、最悪のケースが起きた場合を考えておかないといけないということです。

2点目はそれにかかわって、富山県としても津波対策についてももしっかり備えないといけないということです。

3 点目はただ今の知事のご挨拶にもありましたが、そういうことを踏まえて、しっかりした防災教育をしなければならないということです。

4 点目は情報伝達ですが、緊急速報メールなどいろいろな新しい情報伝達の手法が開発されておりまして、そういう多様な手法をうまく組み合わせて、しっかり県民に伝えるシステムをつくらなければいけないということです。

5 点目が重要なことで、災害時要援護者の方々の命、暮らしを守る対策、それから避難所等で女性の方のいろいろな問題、小さな子どもさんの問題が出てきておりますので、そういう女性や子どもの視点に立った対策をしっかりしなければいけないということで、2月までの主なポイントを示させていただきました。

それらを踏まえまして、パブリックコメントを2月から3月にさせていただきました。その中でもいろいろなご意見が出てまいりましたが、主なものとしては二つあります。一つは、市町村の庁舎の非常電源設備です。電気が止まってしまっはいけないので、非常用の発電設備をしっかり整備した方がいいというご意見があります。

それから、先ほどの情報伝達とも関係するのですが、コミュニティ FM 放送をもっと活用してはどうかというご意見です。コミュニティ FM による避難指示を緊急放送できるようにした方がいいというご意見が出ています。

そういうことを踏まえまして、第4回部会でシミュレーションの検討をさせていただきました。まずは一番中心的な課題ですが、一つは富山県の津波の特徴として規模はそんなに大きくないと。だから、東日本大震災のような巨大な津波が押し寄せるわけではないのですが、到達時間が非常に早い。近くで起きるので、すぐにやってくるということです。そんなに奥までは入らない、10m ぐらいのところまで入ってくるわけですが、それでも早くやってくるので、まずは建物耐震補強、津波にも強い建物にするということも必要です。それから海岸の堤防と保全施設についても、さらにしっかり整備を図ると。

それから、長期的には土地利用をしっかり考えておかないといけません。そこに引き続き住むというよりは、できるだけ安全な場所に全体として移転するようなことも含めて考えていかないといけないということです。

さらに、県民のいろいろな方の不安等、あるいは対策についてしっかり相談できる相談窓口をつくり、県民の不安に対してもきちんと説明ができる。そういうことをしていけないといけないというのが、第4回部会の主な意見です。

それ以外にも、富山県は倉庫管理や物流のノウハウが非常に蓄積された県で、そういう

物流等のノウハウをうまく防災対策に生かす必要があること。あるいは医療の問題で、臨時的に医療のための広域搬送拠点をきちんと整備してはどうかというご意見もごございます。そういうものを踏まえて、今回の地震対策の地域防災計画の見直しに反映させていただいていると思いますので、よろしくご検討いただきたいと思います。

私の舌足らずなところは事務局から説明していただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

(石井知事) ありがとうございます。それでは事務局から説明をお願いします。

(事務局) それでは、事務局の方から配布資料を一括してご説明申し上げます。

まず、資料1「津波シミュレーション調査の調査結果の概要について」をご覧ください。これは去る3月30日に発表したものですが、1ページの3行目、「富山県に影響を及ぼすおそれのある津波についてシミュレーション調査を実施し、津波高、津波の到達時間、津波による人的被害等を予測したもの」です。「1. 調査にあたり想定した津波」についてですが、四つ目の「本県では、念のため、あらゆる可能性を考慮して、県民の一層の安全・安心の確保に資するため、さらに発生確率の極めて低い、3,000～5,000年に一度程度の活断層（呉羽山断層帯）による津波を想定することとした。また、国（地震調査研究推進本部）において、断層の存在、長さ等が明確には確認されていない断層（糸魚川沖や能登沖の断層）による津波も、念のため想定することとした」ものです。

その調査結果の概要については、4ページをご覧ください。「(1) 津波高及び最大津波高の到達時間の予測」ということで、上の表に市町村別の津波高及び最大津波高の到達時間を記載しております。①呉羽山断層帯の地震においては、最大の津波高は滑川市で2.3～7.1mの範囲、そしてその場合の到達時間は2分ということで短いものです。

次に5ページをご覧ください。5ページは浸水域の面積を参考にお示ししております。このうち下の表の②に海岸保全施設が津波によって破壊される場合の浸水の面積を予測しておりますが、表の一番下の合計欄をご覧くださいますと10.8km²となっております、そのうち浸水高が2m以上の地域は0.4km²に留まっております。

「参考2」ですが、浸水高が5m以上の区域は海岸からの浸水距離がおおむね10m以内で、浸水域の面積も県内3カ所ありましたが、その合計でもおおむね0.01km²となっております。

次に6ページをご覧ください。「(3) 被害想定予測とその軽減効果」ですが、まず被害想定予測では、①呉羽山断層帯の地震の場合は、海岸保全施設が機能する場合は死者が105人、破壊される場合は125人と予測しております。下の表ですが、「②人的被害の軽減効果の予測(避難意識の向上)」では、避難率を68%、77%、98%と設定していますが、避難率が上がるにつれて死者数が減少していくと予測しております。

次に7ページをご覧ください。7ページは、こうしたシミュレーション調査結果を踏まえた津波防災対策の拡充強化ということで、県においては県民意識の向上による避難率の向上、それから海岸保全施設の整備などにより津波防災対策の拡充強化を図ることとしております。特に「(1) 県民意識の向上」については、本年4月にオープンした県広域消防防災センターを活用して、子どもたちなど県民を対象として、富山の四季の特徴的な体験型学習などにより防災意識の向上を図っていくことにしております。

続いて資料2をご覧ください。富山県地域防災計画(地震・津波災害編)修正案の主な改正点ということで、これまでの防災会議や部会、パブリックコメント、今回の津波シミュレーション調査結果などを踏まえて主な改正点を取りまとめたものです。右上の凡例にありますとおり、3月30日の地震対策部会でのご意見等を反映させた部分には下線を引いております。下線部分を中心に説明いたします。

まず、1枚目の津波災害対策については、左下の「予防」のところでは、「1. 避難計画の作成、避難場所等の指定」では、部会でのご意見を踏まえまして、「市町村で、本県の津波の特徴を踏まえた津波ハザードマップの作成、住民への説明」と修正しております。

それから「③徒歩避難原則の徹底等と避難意識の啓発」の部分では、同様に部会のご意見を踏まえまして、一つ目に「本県の津波の特徴を踏まえた津波避難対策の検討」、そして五つ目に「津波相談窓口の設置」を追加して記載しております。

右側に移りまして、「3. 津波防災地域づくり、多重防護施設や避難経路等の整備」において、①では同様に「本県の津波の特徴を踏まえたまちづくりの推進」、そして②では「耐震点検や津波耐力点検、補強等による海岸保全施設等の耐震性・津波耐力の確保」と修正しております。

それから、右下の「応急」では1の②に、パブリックコメントを踏まえ、多様な伝達手段としまして「コミュニティFM放送」を追加しております。

2枚目をご覧ください。2枚目は「地震災害対策」ですが、「予防」のところでは、「2. 防災活動体制等の整備」の③においては、全国知事会での広域応援体制の見

直しの動きを踏まえまして、「全国知事会による都道府県相互の広域応援体制の拡充強化」と修正させていただいております。また、各種防災関係機関等との連携強化の部分では、東日本大震災での救援活動における自衛隊の役割に鑑みまして、大量の救援物資の輸送や迅速な人命救助の観点から、大型ヘリコプターの活用など「陸上自衛隊富山駐屯地の充実」を追加させていただいております。

また、「3. 救援・救護体制の整備」の②では、部会でのご意見を踏まえまして、「物流・倉庫事業者との連携による救援物資の保管・管理と輸送手段の確保」を追加させていただいております。

それから右側に移りまして、「応急」の「1. 応急活動体制、情報収集伝達」は、①で部会でのご意見を踏まえまして、SCU、これは重症患者の広域搬送のための広域搬送拠点における臨時医療施設のことですが、これを記載させていただいております。また、③では先ほど同様に「コミュニティ FM 放送」を追加させていただいております。

資料3をご覧いただきたいと思います。資料3は防災計画修正案の要点について、それぞれの項目ごとに国、県、市町村、防災関係機関の役割を記載したもので、これについては2月の防災会議で示したものを、同様に3月の部会でのご意見等を反映させて修正したものです。

それから、資料4は地域防災計画の新旧対照表です。これについても2月の防災会議でお示ししたものを、同様に3月の部会でのご意見を踏まえて修正しております。資料5はこれまでの協議の経過についてまとめたもの、資料6は今後のスケジュールということで記載のとおりです。

事務局からの説明は以上です。

(石井知事) どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。今回は地震・津波対策編についての最後の会議ということですので、修正案の内容に関するご意見をいただくほか、今後の計画の進め方についてもご意見がありましたらお願いしたいと思います。それでは、どなたからでもよろしくお願いします。

それでは時間をもったいない面もありますので、京都大学の川崎先生、何か。

(川崎委員) 今まで僕が言った意見は十分取り入れていただいているので、特にありま

せん。

(石井知事)　　そうですか。ありがとうございます。それでは、同じく学識経験者ということで竹内委員、どうでしょうか。

(竹内委員)　　この計画全体については特に異論はありません。私どもの方は、いわば専門的な立場としまして、津波シミュレーション調査は一つの例ということで、例えば呉羽山の断層が動いた場合に海底の地すべりによる津波も考えられますので、これからもいろいろ研究していきたいと思います。特に津波の堆積物などの研究を進めていきたいということで、これはこちらの決意表明のようなものですが、以上です。

(石井知事)　　はい。では、今後ともしっかりと、またご研究よろしくお願ひしたいと思ひます。ほかにいかがでしょうか。せつかくですから、どうですか。町村会の伊東会長、いかがですか。今後の進め方などでも結構ですから。

(伊東委員)　　津波のことについては、先生方やいろいろな皆さんの頭の中で、どういうものが最大限想定されるかということは分かったと思ひます。そこで、例えば滑川市長がおっしゃるように、滑川で7mのものが来るという話ですが、ではどうすればいいのか。これは全国すべてそうですが、大体の津波は想定されるころまで来た。では、そこで具体的にどうするかということについて、市町村ごとにエリアが決まっていますので、どのようなお手伝いをするかということについて具体的に進めていく必要があると思ひています。ただ、やはりこのまま流れていって、頭の中に入ったけれども何もしなかったということになっては困りますので、具体的にどうするかということについて、細かいことにも入っていくべきだと思ひています。

(石井知事)　　ありがとうございました。今日は医師会から小関さんにご出席ですが、何かございますか。

(岩城委員〈代理：小関富山県医師会常務理事〉)　　応急のところでは被害の確認といひますか、初期の調査チームのようなものをつくったらいひではないかと。どこへ、誰が調査

に行くかというところがあったらいいのかなと思っております。

(石井知事) ありがとうございます。またその辺は各論でご相談させていただきたいと思えます。せっかくですから歯科医師会の吉田会長、何かございますか。

(吉田委員) 今、伊東町長が言われましたが、どう進めていくかということで、歯科医師会単独ではないので、やはり医師会や薬剤師会、看護協会などの皆さんが、計画の中にも入っている連携ということで、これから具体的なことはどんどん話をしていかなければいけないと思っております。

(石井知事) ありがとうございます。それでは消防協会の佐伯会長、いかがですか。

(佐伯委員) 富山県内は、富山市もそうですが、市町村を見ると四方から水橋まであつという間に来ると感じがします。ということになると、まずそれを聞いて、それにどうやって対応するかということが大きな問題かと私は思っています。

(石井知事) ありがとうございます。それでは消防長会の兜山会長、いかがですか。

(兜山委員) 今ほど話がありましたが、津波の到達時間は1分、2分という時間です。この時間でどれだけ対応できるか。特に消防の方としては、今までは巡回の広報、避難誘導をやってきましたが、時間との勝負といえますか、果たしてどれだけ活動ができるかという非常に難しいところがあります。その辺のもっと具体的なことは、まだこれから検討が必要かと思っております。

(石井知事) ありがとうございます。ほかに何かご意見はございますか。せっかくですから、陸上自衛隊の富樫連隊長。大型ヘリコプターの基地の充実が必要だという記述が入っていますが、いかがですか。

(富樫委員) 富山駐屯地の拡張要望については、現在、自衛隊としても指揮系統を通じて継続して施設要望を実施していると聞いております。全般のところでは、今回の計画で

は特にはないのですが、災害等についてはやはり常日頃からの準備が非常に大事だと思いますので、これまでやらせていただいていますとおり、県や関係機関との連絡を密にして、実際、事が起きたときには迅速に人命救助できるように引き続きやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(石井知事) ありがとうございます。そういえば、商工会連合会の石澤会長は全国の会長もされて、今回専門委員として初登場でいらっしゃるんですが、何か一言ございますか。

(石澤委員) 私は標高 30m ほどに住んでいますので、津波の実感が全くないのです。私が疑問に思うのは、富山湾のような水深の深いところでの津波発生の可能性、確率はほかの太平洋側と同じなのですか。地震イコール津波と、どうも結びつかないので。備えあれば憂いなしだと思いますが、そこら辺を十分理解していないのです。

(石井知事) これは前回の地震対策部会でかなり突っ込んだ議論があったのですが、太平洋側では、今度の東日本大震災でもそうでしたが、20m、30m、高いところでは 40m と、大きな海溝型の地震です。日本海側は、専門の先生方がいらっしゃるので本当は詳しくお話をいただいたらいいのですが、活断層が原因の津波なので、先ほど事務局から説明しましたように最大地点でも呉羽山断層帯の場合、滑川市で 2.3～7.1m ということで比較的規模が小さい。その代わり、到達する時間が 1～2 分と非常に早いと。ただ、もう一つの救いは、浸水面積が、5m 以上のところはせいぜい海岸から数メートルの範囲に収まることです。それから、第 2 波が太平洋側のように大規模なものがまた来るということではなく、大体第 1 波で済むということになっていますので、太平洋側とはだいぶ質的な差があると思うのですが、かといって安心できるかということ、確率は 3000 年や 5000 年に一回かもしれませんが、あり得ないことはないわけですので、その辺をしっかりと念頭に入れて対応しようということ。またご専門の先生方、足りない点があればご説明していただければと思います。

(石澤委員) 分かりました。太平洋側のような地震ではなく、綿密な防災計画、避難対策を講じていればそれほど心配が要らないということであれば、了解しました。

(石井知事) ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。今日は女性の委員も何人かおられますが、薬剤師会の清水委員、何かございますか。

(清水委員) 先の東日本大震災では病院が機能しなくなったということで、非常に大勢の、特に高齢の慢性疾患の方の薬が困ったという話をどこに行っても聞きました。やはりそういうことについては、町の薬局の機能を失わせないように、薬剤師会としましても各地域、例えば新川地区や射水地区を中心に、これから何軒かで共同していろいろな防災に向けての計画を立てていかなければと思っております。よろしく願いいたします。

(石井知事) どうもありがとうございました。各論の段階で、またいろいろとお考えをお聞かせいただきたいと思えます。ほかはいかがでしょう。気象台の藤井台長、いかがですか。

(藤井委員) 気象台の藤井でございます。気象台としては防災教育への強化ということに関連して、防災教育の支援を行っていかうと考えております。気象庁で作成した関連資料を市町村の教育委員会を通じて各学校にお届けするようなことを考えておりますし、場合によっては気象台の職員を派遣して、各学校で防災にかかわるような出前講座を実施したいと考えております。小学校、中学校といっても何百校とありますから、全部というわけにはいきません。それで、学校の先生がお集まりいただくような場所で、今、校長会等をお願いしておりますが、そういったところで少しご説明したいと思っております。

それから、それと関連しまして気象庁は津波警報の改善ということで、今年度中に津波警報の見直しを考えております。既に有識者の方々との検討会、それからパブリックコメントをいただきまして、骨子が出来上がっております。あとは太平洋側の地震ですが、マグニチュード8を越すようなとんでもない地震が起きたときに、最初にどのように判断するかというような技術開発を含めて検討しております。それを併せまして、津波警報の改善を今年度中に行うということで、その広報も含めて取り組んでいきたいと思っております。そんなところで県の防災計画の予防と応急の関連について補足しました。

(石井知事) ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。はい、どうぞ。

(川崎委員) 今、台長から緊急地震速報の話がありましたが、多分それはもうテレビで聞いている通常の情報と勘違いされる方が多いのではないかと思います。テレビで流れてくるのは、複数の観測点で強い地震動を感じて確実になった段階で出てくるので、ちょっと遅れます。台長が言われたのは、多分、1点の観測で直ちに情報を送り出し、震度まで予測してくれる「高度利用者向けの緊急地震速報(予報)」のことでないかと思うのですが、それでいいでしょうか。

(藤井委員) 申し訳ありません。今、緊急地震速報のことは申し上げませんでした。私どもの広報の関連で緊急地震速報の名前は一般に知れ渡ってきましたが、緊急地震速報がどんなものかということは、ちょっとまだ広報が足りない部分があるかと思っております。そういったことも含めて広報活動に努めていきたいと思っておりますし、緊急地震速報を取り入れたような訓練の実施をお願いしているところですが、そういったものに協力できればと思っています。ちょっと答えになっていないかもしれませんが。

(川崎委員) ちょっとすれ違ったようですが、追加の意見を言わせていただきますと、足元で地震が起こったときには緊急地震速報が間に合わないことは確かなので、「呉羽山断層が動いたときに役に立たないから緊急地震速報は不要」と思う県民は多いかもしれません。ただ、この「高度利用者向けの緊急地震速報(予報)」は、地震が起こるたびに、地震が来る前に自分がいる場所の地面の揺れと避難のことを意識させ、防災意識を保つのにたいへん役に立ちます。だから富山では不要と思わないで、多くの人が集まる学校や県庁などの公共の場所には「高度利用者向けの緊急地震速報(予報)」、あるいはそれに変わるシステムを入れるようお勧めしたいと思っております。

(石井知事) ありがとうございます。ほかにいかがですか。

(石澤委員) 言いそびれましたが、東日本大震災の津波で犠牲になった消防団員が非常にたくさんおります。その多くは商工会員です。というのは、自営業で体の自由が利いたからです。従いまして、商工会の会員こそ防災対策を徹底して、危険と同時に責任が非常に重いということを痛感しております。

(石井知事) 大体、議論も尽きたと思いますが、今の議論に関連してNHKの北村支局長、何か。特段ございませんか。

(北村委員) 今回の地域防災計画の見直しの一番の目玉は、やはり津波調査が行われたことだろうと思います。それを受けて意欲的な計画ができたのではないかと考えています。

メディアについて言いますと、こちら側にいろいろなメディアのことが書いてあるのですが、まさにそのとおりで、いろいろな多様性のあるメディアを使って県民の方々に周知していくということがメインで、ここに書いていないことも恐らくもう2~3年すれば出てくると思っています。新たなメディアも使いながら迅速に情報を伝えていかなければいけないのではないかと考えています。それからもう一つ、伝え方についてもいろいろ反省点がありますし、もっとうまくやった方がいいというアイデアもありますので、この辺については一生懸命勉強していきたいというところです。

この計画が大体できつつありますので、これ以降のことについて2点ばかり要望を申し上げたいのですが、特に津波については揺れが来たらすぐに来てしまうということで、これまでの防災訓練と全然考え方が違ってくると思うのです。先ほど消防の方々もおっしゃっていたように、これまでわれわれがやってきた防災訓練が全く度外視されるような格好になってしまいますので、どちらかのところでモデル的な防災訓練の方法をおつくりになって、それをいろいろなところでやっていくという周知方法もいいのではないかと考えているということが一つです。

それから、先ほど室崎先生がおっしゃったように、やはり耐震化が最大化のポイントであると思います。私も防災会議で何度か申し上げたのですが、一般住宅の耐震化をいかに進めていくか。計画に書いてありますように円滑に進むように、行政のいろいろな手立ての方法をこれからよろしくお願いしたいと考えております。以上です。

(石井知事) ありがとうございました。今おっしゃった2点のうち、前段の方は今年、早速県内で何か所かモデル地区を選んで津波避難訓練をするようにしまして、そういうことを実践する中で、あるべき姿をできるだけ示すよう努力したいと思います。また、耐震化はおっしゃるとおりで、かねてから住宅の耐震化は全国トップレベルの助成制度を持って進めております。この東日本大震災で随分県民の皆さんから要望が出てきましたので、できるだけこういう機会に大幅に改善したい。また、学校、道路、橋梁の耐震化等の計画

を2年ほど前倒しして、平成27年度末までには学校はすべて耐震化する。また、橋なども優先度の高いものはすべて耐震化するということで進めております。

それでは議論も尽きたと思いますが、室崎部会長、何かございますか。よろしいですか。先ほどの川崎委員のご意見も、特にここを修文しろということではないということによろしいですか。

4. 閉会

(石井知事) それでは、今日は大変貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。昨年来、お忙しい皆さんに集まっていたいて、今度の地域防災計画は、大変いろいろなご議論を踏まえて、しっかりとした改定ができたのではないかと思います。ただ、いくら計画に立派なことを書きましても、要は実行だと思います。今日もいろいろ、今後の進め方について大変貴重なご意見をいただきました。委員の皆さんのご意見に対応して、またしっかりと進めてまいりたいと思います。各委員の皆さんは有識者の方、県内各部門の責任ある立場の方々ばかりです。皆さま方、それぞれのお立場で富山県の安全・安心のためにまたご尽力いただきますように心からお願いいたしまして、終わりの挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。